

カナダにおける図書館情報学教育(2)

大 城 善 盛

7. 1980年代以降の図書館情報学教育

7.1 専門職教育

1980年代に入ってもカナダおよびアメリカ合衆国の経済的不況はつづいた。他方、コンピュータをはじめとする情報技術が著しく進展し、図書館学教育も大きな影響を受けた。図書館学教育にコンピュータをはじめとする情報技術を導入しないならば、情報科学（もしくはコンピュータ科学）が図書館員の職域を浸食するかもしれないという一種の恐怖感が図書館界にあった。その対応策として、1980年代に入ると多くの図書館学部がその名称に‘information’を追加し、カリキュラムも情報関係のものを多く追加するようになった。¹⁾

カナダでは、トロント大学が1982年に Faculty of Library Science から Faculty of Library and Information Science に、マギル大学は1985年に Graduate School of Library Science から Graduate School of Library and Information Science へ名称を変更した。その後、ダルハウジー大学も School of Library Service から School of Library and Information Studies へ、アルバータ大学も Faculty of Library Science から Faculty of Library and Information Studies へそれぞれ名称を変更した。²⁾

カリキュラムの分野でトロント大学の例を見ると、情報関連の科目を多く導入するだけでなく、1988年には情報学修士 (Master of Information Sci-

ence, MIS) 課程を設置している。その情報学修士課程の目的は、情報システムを設計・開発・維持する能力をもち、そして、情報提供と関わる技術を開発する能力をもつ専門家を養成することであった。それは、伝統的な図書館学教育からは想像し難い大きな飛躍であった。

図書館学部の生き残り策は情報分野への拡張だけでなく、類縁分野である文書館学へも拡張していった。1981年にはブリティッシュ・コロンビア大学が文書館学修士 (Master of Archival Studies) 課程を設置した。それに伴って、学部の名称も1984年に School of Librarianship から School of Library, Archival and Information Studies に変更した。文書館学に関しては、1990年代に入ってからではあるが、トロント大学で専攻として設置し、モントリオール大学では学部課程に設置するようになった。³⁾

1980年代にアメリカ合衆国では11の図書館(情報)学部が閉鎖に追い込まれるが、カナダの場合の一つの学部も閉鎖されなかった。その要因として、McNally は次の4つを挙げている。⁴⁾

- (1) カナダの図書館情報学部はすべて、規模の大きい有名な大学に設置されていること。
- (2) それらすべての大学に、伝統的な専門職教育である医学部と法学部があること。
- (3) それらすべての大学図書館の蔵書がカナダではトップ・クラスに位置すること。
- (4) アメリカ合衆国では1960-70年代に図書館学部が多く設置されたが、カナダでは7学部にとどめ、図書館専門職員の過剰供給をしなかったこと。

しかし、カナダでは大きな変化は1990年代に入って訪れた。アルバータ大学、マギル大学およびウェスタン・オンタリオ大学が学部 (faculty) のステータスを失うことになる。アルバータ大学は1991年に教育

学部の中に位置づけられ、School of Library and Information Studies になった。1996年にはマギル大学の図書館情報学部も教育学部の傘下に入ることになった。⁵⁾ ウェスタン・オンタリオ大学の場合、図書館情報学部は長い間大学院研究科 (Faculty of Graduate Studies) の1ユニットとして独立を保ってきたが、1996年に大学院ジャーナリズム学部 (Graduate School of Journalism)、継続教育学部 (Faculty of Part-time and Continuing Education) と合併し、コミュニケーション・オープン学習学部 (Faculty of Communications and Open Learning) という新しい学部が創設され、その傘下に入るようになった。ダルハウジー大学の図書館情報学部の場合は、閉鎖の危機に直面したが、経営学部 (Faculty of Management) の傘下に入ること生き残ることができた。⁶⁾

上記のように、カナダの図書館情報学部の場合、アメリカ合衆国のような閉鎖は免れたものの、経済的不況の影響は1990年代に訪れ、規模を縮小することで生き延びている状態である。しかし、不幸なことばかりではなく、将来が期待されるような事も1990年代には起こっている。トロント大学の図書館情報学部では1990年からカリキュラムの徹底的な見直しを始め、1994年に名称を Faculty of Library and Information Science から Faculty of Information Studies に変更した。そして、翌1995年にはそれまでの2種の修士課程を情報研究修士 (Master of Information Studies, MIST) 課程に統合し、図書館情報学、情報システム、文書館学の3つの専攻を設置している。

マギル大学の図書館情報学部では、組織的には大学院研究学部 (研究科) に属するが、学際領域として1991年に博士課程を設置している。1997年にはモントリオール大学の図書館情報学部が博士課程を設置することになっており、それは世界のフランス語圏で最初の図書館情報学の博士課程となる。⁷⁾

情報は国の重要な経済資源の一つであり、情報を創造、処理、管理、利用する技術をもつことは21世紀の知識社会では必須であり、世界の産業市場で国際競争力を高めるためにも必須であるという認識のもとに、アメリカ合衆国に3年遅れはしたものの、カナダも諮問委員会の諮問という形ではあるが、1996年に国家情報政策を打ち出している。(1)競争力と職の創出、(2)カナダの特性と文化、(3)アクセスと社会的影響、(4)学習と訓練、(5)研究と開発、の5つの柱を立てて答申されている。「(4)学習と訓練」の部では、現代および21世紀を生涯学習社会と位置づけ、正規の教育と同時に社会教育や継続教育、職場研修等の非正規の教育の重要性が指摘されている。そしてまた、教員はもちろんであるが、図書館員の役割やその養成の重要性も指摘されている。⁸⁾ 21世紀のカナダの図書館情報学教育の中に、その情報政策が如何に具現されていくか関心の持たれるところである。

7.2 図書館技能者教育

1980年代以降の図書館技能者教育については、CLAの1979年度年次大会が重要な意味をもつ。その年次大会でCTLTを存続させるかどうかを検討された。そして、「図書館技能者の役割と教育委員会」(Committee on Library Technicians (Role & Education))という名称に変更することで存続が認められた。その委員会は、次のような任務を負わされた。⁹⁾

- (1) 図書館技能者の資格、教育および処遇に関して調査し報告すること。
- (2) 図書館技能者の職場での役割を明確にし、効率的な人事配置を勧告すること。
- (3) 図書館技能者の継続教育の機会について情報収集をすること。
- (4) 現在の図書館技能者教育について調査し、関連機関へ勧告書を出す

こと。また、最近の卒業生の能力についても雇用機関から事情聴取をすること。

「図書館技能者の役割と教育委員会」は直ちに行動を開始し、図書館学の教育者、雇用者および図書館技能者自身に事情聴取をして情報を集めた。そして、それらの情報を基に、1982年に新しいガイドライン Guidelines for the Education of Library Technicians を作成し公表した。

新ガイドラインの特徴は、CEGEP のカリキュラムも参考の上、時代の流れを反映させるべく図書館技能者をドキュメンテーション技能者も含むとし、卒業生の職場として図書館だけでなく、書店、出版社等も視野に入れたことである。それ以外は基本的に1973年のガイドラインと似ている。しかしまた、学生が卒業時に習得すべき最低技術を詳しくリストしているのも一つの特徴である。そのリストには収書業務分野で13項目、目録と分類業務分野で11項目、貸出・閲覧業務分野で5項目、レファレンス業務分野で6項目がリストされている。例えば、目録と分類業務分野では、以下のような能力を要求している。¹⁰⁾

- (1) 印刷形、マイクロ形態もしくはオンラインのソースを使って目録情報を調べることができる。
- (2) 商用データベースの目録データを使って（流用して）目録を作成することができる。
- (3) 国際レベルの目録規則の基本的な適用ができる。
- (4) 典拠ファイルの維持ができる。
- (5) 配列規則に則った閲覧用目録の維持ができる。
- (6) 標準的目録フォーマットを理解でき、目録作成ができる。
- (7) DDC, LC 分類表, Sears 件名標目表, LC 件名標目表を適用できる。
- (8) Cutter テーブルやその他の図書記号システムの適用ができる。

(9) 書架目録の維持ができる。

(10) コンピュータ目録システムへ情報をコード化，入力・編集することができる。

(11) 目録関係の事務を監督できる。

レファレンス業務分野に関しては委員会内部でも紛糾したようである。結局，図書館技能者と専門職の図書館員が扱うレファレンスの相違は，レファレンス質問の複雑性にあるとした。¹¹⁾ その相違を認識した上で，図書館技能者のレファレンス技能を以下の6つとしている。¹²⁾

- (1) 利用者のニーズを確かめるためのレファレンス・インタビューを行う能力。
- (2) 標準的なレファレンス・ツールやデータベースを使って基本的なレファレンス質問に答える能力。
- (3) ハイレベルのレファレンス質問に対してはそのレベルを認識し，プロのレファレンス・ライブラリアンに廻す能力。
- (4) 特定主題について書誌を作成する能力。
- (5) カレント・アウェアネス・サービスの援助能力。
- (6) バチカル・ファイルやコミュニティ情報のための資料を収集し組織化する能力。

1980年代中頃以降の図書館技能者の教育は，一般的に新ガイドラインに基づいて行われているといえる。しかし，その後の経済的不況の煽りを受けて就職状況は芳しくなく，学生数も減ってきている。図書館を取り巻く環境の変化，特に業務やサービスへのコンピュータ導入の影響を受けて，シェリダン大学 (Sheridan College) やライアソン工科大学 (Ryerson Polytechnic University) のように，図書館技能者教育を廃止して情報学 (Information Studies) もしくは情報技術 (Information Technology) の修了証コースを開設する大学も出現してきている。¹³⁾

他方、図書館技能者教育の歴史も古く、ケベック州に在りながらケベック州のガイドラインではなく新ガイドラインに基づいて、a) 図書館学証書 (Certificate in Library Studies), b) 図書館学専攻文学士 (B. A. Major in Library Studies), c) 図書館学修了証 (Diploma in Library Studies), の3種のコースを開設しているコンコーディア大学 (Concordia University) もある。3種のコースとも図書館技能者教育である。それらのコースは主に職を持っている人たちを対象にしている、科目は主に夜間に開講されている。¹⁴⁾ (詳細は「8.5 コンコーディア大学における図書館情報学教育」を参照)

図書館技能者教育に関しては、CLA を通じてカナダの図書館界が団結して取り組んでいるように見える。しかし、現実はずしもそうではなく、大きな課題も抱えているように推測される。カナダの図書館情報学教育の伝統校であるマギル大学、トロント大学およびブリティッシュ・コロンビア大学は、図書館(情報)学を専攻して学士号を取得した学生に入学資格を与えていない。その理由として、図書館情報学の専門職教育は学部レベルの広い教養的教育 (academic studies) が必須であることを挙げている。観点を換えれば、それは不幸なことであるといえる。何故ならば、早期に(学部レベルで)図書館情報学への関心をもち、学部課程に入学した学生に門戸を閉ざすことになるからである。北米には学部課程で図書館(情報)学を専攻として開講している大学は少なくない。また、学士号に区別を設けるということは、現代の生涯学習時代の潮流にも合致しない。この入学資格の問題については、図書館技能者の養成者と図書館情報専門職の養成者の間に不協和音が生じていて、それが一因となっているように推測される。

8. 事例による 1990 年代の図書館情報学教育

図書館情報学教育の伝統校であるトロント大学、マギル大学、ブリティッシュ・コロンビア大学、創設当初から情報学を統合しているウェスタン・オンタリオ大学、そして、比較的早くから図書館技能者教育を行っているコンコーディア大学の 1990 年代後半における図書館情報学教育を、以下により具体的に紹介し考察する。

8.1 トロント大学情報学部における教育¹⁵⁾

トロント大学の情報学部を歴史的に概観すると、1982 年に名称を Faculty of Library Science から Faculty of Library and Information Science に変更している。そして、上記のように 1988 年には情報学修士 (Master of Information Science, MIS) 課程を創設している。情報学修士課程の目的は、情報システムを設計・開発・維持する能力をもち、そして、情報提供と関わる技術を開発する能力をもつ専門家を養成することにあった。しかし、1994 年までの 6 年間の状況を見ると、情報学修士課程の学生はほとんどパートタイム学生で、既に情報関係の仕事に就いている人達であった。そして、MLS (図書館学修士) の学生も MIS の学生も互いの領域の科目を履修し、多くの履修科目においてオーバーラップが生じていた。¹⁶⁾

他方、オンタリオ州の関係者からトロント大学に対して、アーキビスト養成の強い要求があった。また、図書館情報学部の教授陣には、情報化が進むにつれて情報のコンピュータ化やアクセス手段において図書館と文書館は共通したところが多い、という認識もあった。機関や組織がコンピュータ化されるにつれ、情報の利用および情報の利用者に対する理解が重要であるという認識もあった。すなわち、コンピュータ化の技術的、社会

的、組織的側面に詳しい情報システム専門家の養成が重要であるという認識があった。¹⁷⁾

そのような状況の中で、トロント大学図書館情報学部は1990年の秋からカリキュラムの徹底的な見直しを始めた。その結果、1994年に名称を Faculty of Library and Information Science から現名称の Faculty of Information Studies に変更し、翌1995年にはそれまでの2種の修士課程を情報研究修士 (Master of Information Studies, MIST) 課程に統合した。そして、新しく文書館学コースを追加し、情報研究修士課程は図書館情報学 (Library and Information Science)、情報システム (Information Systems)、文書館学 (Archival Studies) の3つの専門に分化するという形をとるようになった。

1) 情報研究修士課程の教育目標

トロント大学の情報学部は1997年現在、情報研究修士課程 (Master of Information Studies)、博士課程 (Doctor of Philosophy in Information Studies)、マクルーハン文化と技術プログラム (McLuhan Program in Culture and Technology)、継続教育プログラム (Continuing Education Program) を提供している。ここでは情報スペシャリストもしくは専門職図書館員の養成を目標としている情報研究修士課程を中心に考察する。

情報の組織化、検索および利用に関する研究において伝統があるトロント大学情報学部の修士課程は、情報のあらゆる分野——生産、組織化、保管、アクセス、検索、提供、保存および保護——に重要な役割を果たし、情報技術をしっかりと理解し、そしてまた、社会、ビジネス、政府、人文科学や自然/工学領域等における情報要求や、児童、マイノリティ、老人などの特殊の人々の情報要求をも理解する情報専門家を養成することを目標としている。図書館が情報源を収集する主要な機関であった時代には、同情報学部は図書館にその焦点を当てていた。情報を図書、雑誌、フィルム、録音資料などのパッケージ形で捉え、如何にそれらの資料を収集しア

アクセス可能とするかに強調点をおいていた。しかし、同情報学部は現在、パラダイムをシフトさせ、情報はさまざまな方法で発生、保管、アクセス、保存されるものと理解し、それらさまざまな方法に起因する問題を解決できる情報専門家を養成することを目標としている。¹⁸⁾

2) 情報研究修士課程のカリキュラム

情報研究修士課程は、図書館情報学 (Library and Information Science)、情報システム (Information Systems)、文書館学 (Archival Studies) の3分野に専門化している。カリキュラムはその3分野に共通のコア科目群、各分野に必須の科目群、選択科目群という形で編成され、修士号を取得するためにはコア科目群と該当分野の必須科目群の履修に加えて、選択科目群より少なくとも4科目、それ以外に学生の自由選択による4科目を履修しなければならない。科目群は以下の通りである。¹⁹⁾

コア科目群

「情報とその社会的文脈」 (Information and its Social Contexts)

「情報の表現、組織化および蓄積」 (Representing, Organizing and Storing Information)

「情報機関の経営」 (Management of Information Organizations)

「調査研究法」 (Research Methods)

図書館情報学専攻の必須科目群

「情報の資源とサービス」 (Information Resources and Services)

「情報技術概論」 (Introduction to Information Technology)

「書誌コントロール概論」 (Introduction to Bibliographic Control)

情報システム専攻の必須科目群

「情報システム概論」 (Introduction to Information Systems)

「情報システム分析」 (Analyzing Information Systems)

「情報システム設計」 (Designing Information Systems)

「データベース設計」(Database Design)

文書館学専攻の必須科目群

「情報技術概論」(Introduction to Information Technology)

「文書館のコンセプトと課題」(Archives Concepts and Issues)

「文書館学と文書館機能」(Archives Science and Functions)

「文書館のプログラムとサービス」(Archives Programs and Services)

選択科目群

(資源とコレクション分野)

「コレクション構築と評価」(Collection Development and Evaluation)

「コレクションの管理と利用」(Management and Use of Collections)

「人文学文献」(The Literature of the Humanities)

「社会科学文献」(The Literature of the Social Sciences)

「科学・工学文献」(The Literature of Science and Technology)

「法学文献とライブラリアンシップ」(Legal Literature and Librarianship)

「ビジネス情報源」(Business Information Resources)

「健康科学情報源」(Health Sciences Information Resources)

「政府情報と刊行物」(Government Information and Publications)

「国際機関：その文書と刊行物」(International Organizations : Their Documents and Publications)

「児童のための情報源Ⅰ，Ⅱ」(Information Resources for Children I & II)

「青少年のための図書館資料の評価」(Evaluation of Library Materials for Young Adults)

(情報の蓄積と検索分野)

「書誌レコードの作成と組織化」(Creation and Organization of Bibliographic Records)

「分類の理論」(Classification Theory)

「上級分類法」(Advanced Classification)

「現代トピック：インターネット」(Current Issues： The Internet)

「オンライン情報検索」(Online Information Retrieval)

「情報への主題アプローチ」(Subject Approach to Information)

「主要な件名標目表と分類システム」(Major Subject Heading and Classification Systems)

「情報研究における言語学」(Linguistics for Information Studies)

「現代トピック：オンライン情報の設計」(Current Issues： Design of Online Information)

(情報システム技術分野)

「図書館情報サービスの自動化」(Automation of Library and Information Services)

「情報科学におけるコンピュータ的方法」(Computing Methods in Information Science)

「現代トピック：電子テキストの設計」(Current Issues： Design of Electronic Texts)

「人間行動とコンピュータ情報システム」(Human Performance and Computerized Information Systems)

「情報検索システム」(Information Retrieval Systems)

「情報システムのためのテレコミュニケーション」(Telecommunication for Information Systems)

「利用者中心の情報システムの開発」(User-Centred Information System Development)

(情報の社会的、歴史的分野)

「情報専門職の歴史的発達」(Historical Development of the Information Profession)

- 「分析的、歴史的書誌学 I, II」(Analytical & Historical Bibliography I & II)
- 「カナダ・コレクション」(Canadian Collections)
- 「カナダ研究のためのコレクション」(Research Collections in Canadiana)
- 「現代の出版」(Contemporary Publishing)
- 「現代トピック：起業の図書館員と経済発達」(Current Issues : The Entrepreneurial Librarian and Economic Development)
- 「図書と印刷の歴史」(History of Books and Printing)
- 「電子情報産業」(The Electronic Information Industry)
- 「情報の利用と利用者」(Information Use and Users)
- 「情報技術の社会的影響」(The Social Impact of Information Technology)
- 「多種多様なコミュニティにおける公共図書館」(The Public Library in a Diverse Community)
- 「比較図書館学」(Comparative Librarianship)
- (情報サービスの組織化分野)
- 「情報機関における経営管理的な意志決定」(Administrative Decision-Making in Information Organizations)
- 「情報機関における経営管理(上級)」(Advanced Management of Information Organizations)
- 「図書館における人的資源の管理」(Human Resources Management in Libraries)
- 「レファレンス・サービス：組織と管理」(Reference Service : Organization and Administration)
- 「現代トピック：レファレンスとレファレンス資源」(Current Issues : Reference and Reference Resources)
- 「テクニカル・サービス：組織と管理」(Technical Services : Organization

and Administration)

「児童のための図書館サービスの組織と管理」(Organization and Administration of Library Services for Children)

「企業等の情報センターにおける経営管理」(Management of Corporate and Other Special Information Centres)

(保存・文書館・記録管理分野)

「記録情報の保護と保存」(Conservation and Preservation of Recorded Information)

「記録管理」(Records Management)

「文書館特講」(Specialized Archives)

「稀覯本と手稿資料」(Rare Books and Manuscripts)

(調査研究分野)

「研究プロジェクト」(Research Project)

「上級調査研究法」(Advanced Research Methods)

上記のように、トロント大学情報学部の修士課程は3分野に専門化しているが、図書館情報学分野はこの学部の長い伝統であり、教授陣も施設的にも最も充実した分野である。科目の種類や数を見ても最も領域の広い分野であることが分かる。そして、伝統的な科目も維持しながら新しく必要になってきた科目を追加していることが分かる。修士課程に入学してくる学生の過半数はこの分野を専攻するようである。²⁰⁾

情報システム分野は、以前にあった情報学修士(Master of Information Science)課程が基になっている。この専門分野が他大学の情報システム分野と大きく異なる点は、利用者および利用者へのサービスを極めて重視していることである。カリキュラム全体がそのことを強調している。将来、情報システム関係の需要が拡大すると、この分野を専攻する学生は専門的

(professional), 技術的, 社会的/組織的な分析能力を備えているので, 将来が約束されているという。しかし, この分野を専攻する学生は学部課程でコンピュータ科学と数学をある程度履修していることを条件付けられている。

文書館学分野は, 従来1科目のみ開講され, 非常勤講師によって教えられていた。既述のように社会, 特にオンタリオ州からアーキビスト養成の強い要求があり, 1993年に専任のポストが設けられた。オンタリオ文書館からの強いサポートと, 図書館情報学や情報システムを専門とする教授の中にも文書館学を教えることのできる教授がいたりして, 新しく追加された専門分野である。

北米の図書館情報学部における情報学の導入法を見ると, イリノイ大学のように図書館学と情報学を完全に統合している学部と, ピッツバーグ大学のように図書館学と情報学を分離している学部があり, それらはそれぞれ「統合型」, 「分離型」と称されている。トロント大学の場合, 1988年に情報学修士課程を設置し「分離型」を採っていた。しかし, 1995年に図書館学と情報学を統合し, 文書館学も加えて情報研究修士課程を創設した。その時点で, 「統合型」に変わったとすることができる。しかし, 図書館情報学, 情報システム, 文書館学の3つの専攻 (specialization) に分かれており, コア科目群を共用しながらもそれぞれのカリキュラムは異なっている。そして, 情報システム専攻の場合は入学条件も異なる。これは従来言われている「統合型」とは異なる新しい形の「統合型」である。

トロント大学情報学部は2000年までの修士課程の教育計画を立てている。それは, 次の表の通りである。²¹⁾

表：1995-2000年間の専門化 (Specialization) 計画

専門領域	図書館情報学	文書館学	情報システム
学生の比率	60-65%	15-25%	15-25%
卒業生の職	図書館員 索引抄録家 研究者 書誌専門家 情報コンサルタント 情報センターの管理者 オンライン検索者	アーキビスト 記録管理マネージャー 研究者 コンサルタント	情報システム専門家 オンライン検索者 システム・マネージャー 情報教育専門家 ネットワーク専門家 技術文章家

この表は、少なくとも2000年までは現在のような図書館情報学を中心としたカリキュラムでいく計画であることを示している。そして、図書館情報学を専攻した学生が卒業後、図書館員や書誌の専門家だけでなく情報コンサルタントやオンライン検索者にもなることを期待している。

3) 博士課程

トロント大学の情報学部は、カナダで最初に図書館学の博士課程を設置した学部でもある。カナダの図書館情報学の教授の多くがトロント大学から学位を取得している。博士課程の目標は次の通りである。²²⁾

- (1) カナダで研究と教育をキャリアとすることをめざしている有能な研究者を養成すること。
- (2) 学生の博士論文と教員の研究により、図書館情報学分野の理論の進展、および理論と応用が依拠する知識体系に貢献すること。
- (3) オンタリオ州、ひいてはカナダの図書館情報学界において、研究に対する関心を喚起する刺激剤になること。

博士課程では、「上級セミナー調査研究法」(Advanced Seminar in Research Methodologies), 「購読」(Reading Course), 「独立情報研究」(Independent Study in Information Studies) の3科目が必須科目である。履修後は、次のような4分野から博士論文のテーマを選び、その分野のセミナーを受講しながら論文を仕上げる形になっている。²³⁾

(社会環境と図書館分野)

「図書館とその奉仕対象者」(Libraries and their Publics)

「政治過程における図書館」(The Library in the Political Process)

(情報資源と図書館コレクション分野)

「資源とコレクション」(Resources and Collections)

「児童文献」(Children's Literature)

(情報科学分野)

「情報科学の実験研究」(Experimental Research in Information Science)

「情報科学における測定」(Measurement in Information Science)

「情報の組織化と検索」(Information Organization and Retrieval)

(図書館の経営管理分野)

「図書館におけるモデル, シミュレーション, 意志決定」(Models, Simulation and Decision-Making in Libraries)

「図書館における人的資源の活用」(The Utilization of Human Resources in Libraries)

4) マクルーハン文化と技術プログラム

トロント大学はコミュニケーション技術の心理的, 社会的影響に対するマーシャル・マクルーハン (Marshall McLuhan) の業績を称えるべく, 1963年に「文化と技術センター」(Centre for Culture and Technology) を設立した。そのセンターを継承発展させるべく 1983年には「マクルーハン文化と技術プログラム」(McLuhan Program in Culture and Technology) が創設された。そして, そのプログラムは 1994年に情報学部に統合され, 研究および教育の一つの独立したユニットとして現在活動している。

「マクルーハン文化と技術プログラム」は, コミュニケーション, 文化および技術に関心のある大学の研究者を一堂に集め, メディアと技術の関係の研究を奨励するものである。特に, 技術が文化や社会に及ぼす影響を

広く世間に理解させることを重要課題の一つとしている。そのプログラムは次のような任務を負っている。²⁴⁾

- (1) コミュニケーション技術に重点を置きながら、マクラーハン等によって始められた技術の文化に及ぼす影響の調査研究を進めること。
- (2) コミュニケーション技術の開発とその影響に関心をもつ政府、産業界、教育界とトロント大学との間でアイデアを交換すべくフォーラムを開催すること。
- (3) 大学院レベルのセミナーを開催すること。

この「マクラーハン文化と技術プログラム」はトロント大学全体に開放されており、プログラムに参加を希望する研究者はプログラム委員会の推薦と情報学部長の認可を得て参加する。世界の著名人をゲストに招いて実施する国際テレビ会議は、上記2)のプログラムである。3)のセミナーとしては、「メディア、心および社会」(Media, Mind and Society)、「比較リテラシー：如何に人は異なる文字で読み書きするか」(Comparative Literacy: How People Read and Write in Different Scripts)、「歴史・理論・技術におけるコミュニケーション」(Communications in History/Theory/Technology)、「マクラーハンを理解する」(Understanding McLuhan)、「20世紀の展望」(Perspective in the Twentieth Century)、「ニューメディアと政策」(New Media and Policy)、などが開講されている。

5) 継続教育プログラム

トロント大学の情報学部は継続教育プログラムも提供している。しかし、後述のマギル大学の継続教育とは異なったものである。マギル大学が緻密なプログラムを編成して修了証 (graduate diploma) を授与しているのに対し、トロント大学の場合はほとんどが1日単位のワークショップである。しかも受講資格を問うこともなければ修了書を授与することもない。しかし、将来的には、需要があるならば修了証を授与する継続教育プ

プログラムも計画しており、その需要を調査中である。1996年現在、1年に40回を越える1~2日単位のワークショップを開いていて、カナダで最も規模の大きい継続教育プログラムとなっている。ワークショップのテーマは図書館情報学のすべての領域にまたがっているものの、現代の情報化を反映して情報技術と関わるものが多い。例えば、「インターネット基礎」、「インターネット資源の目録」、「HTMLを使ったWebページの作成法」、「Webサイト：デザインと管理」、「電子ドキュメントの管理」、「ソフトウェアと書誌」、「ネットワークとLAN」、「整理業務のアウトソーシング」、「図書館蔵書のデジタル化」、などのテーマでワークショップが開催されている。また、それらのいくつかはインターネットのWeb上でも開講されている。²⁵⁾

8.2 マギル大学大学院図書館情報学部における教育²⁶⁾

マギル大学の大学院図書館情報学部を歴史的に概観すると、1964年に、1931年以来つづけていた学士課程を廃止し、専門職教育としての2ヶ年の修士課程を設置している。それは、やがてカナダで一般的になる2ヶ年修士課程の専門職教育の先鞭となった。1965年には、名称を大学院図書館学部(Graduate School of Library Science)に変更し、1980年代に入ると、新しく発展してきた情報学を統合すべく情報学関連の科目を追加し、その名称も大学院図書館情報学部(Graduate School of Library and Information Studies)に変更した。そして、学位も図書館学修士(Master of Library Science)から図書館情報学修士(Master of Library and Information Studies)へ変更した。学際領域としてではあるが、1991年には博士(Doc-tor of Philosophy)課程を設置し、1996年には大学院図書館情報学修了証(Graduate Diploma in Library and Information Studies)コースを設けている。ここでは、修士課程を中心に考察する。

1) 修士課程の教育目標

マギル大学の大学院図書館情報学部は、次のような教育ビジョンをもっている。²⁷⁾

大学院図書館情報学部は、人々のさまざまな情報要求を満たすために、情報の同定、収集、組織化、検索および提供に必要な知識および技術に重点をおく。増大しつつある他の情報専門家と同様、図書館員は情報の準備 (information provision) に極めて重要な役割を果たす。それ故、同大学院図書館情報学部は情報研究をダイナミックに進展させるような刷新的なプログラムを編成し、優れた学生を入学させ、修了後は多種多様な環境の中で刷新的、かつサービス志向の情報専門家となり、情報分野の将来のリーダーとなるよう教育する。

同大学院図書館情報学部は、図書館専門職員 (Professional Librarian) の称号に関して唯一の法的権威を持つケベック州図書館専門職員協会 (Corporation des bibliothécaires professionnels du Quebec/Corporation of Professional Librarians in Quebec) と密接な連携を保っている。その協会は、図書館界における専門職員を次のように規定している。²⁸⁾

- a) 人類の知識が如何なる形態で記録されていようとも、それを科学的に保存するために図書館もしくはドキュメンテーション・センターを設立、維持発展、管理することを主たる業務とする人。
- b) 現在大学で教授されている科学的方法によって、人類の知識を保存する手段を分類し、組織化することを主たる業務とする人。
- c) 図書館サービスのために必要な手段や、また地域図書館システムを州、国もしくは国際レベルのシステムと連結させるのに必要な手段を

導入することによって、人類の知識を機関または個人にアクセス可能にすることを主たる業務とする人。

マギル大学の大学院図書館情報学部は、修了者が専門図書館、大学図書館、公共図書館のいずれの図書館においてもプロの図書館員として、もしくは情報専門員 (information professional) として、上記のすべての機能を果たすことができるよう修士課程のカリキュラムを編成し、その教育目標 (goals) を次のように設定している。²⁹⁾

- (1) 図書館情報サービスをキャリアとする際の知的基盤を準備すること。
- (2) 情報資源を管理する能力と適応性を培うこと。
- (3) 変化する社会のニーズに応えるべく技術の適切な使用を促進すること。
- (4) 知識の進展における研究の役割を強調すること。
- (5) 個人、組織および社会に対する専門的サービスへのコミットメントを促進すること。

そして、修了時の学生の能力という形式で、以下の 10 を教育目的として挙げている。³⁰⁾

- (1) 図書館情報学の歴史および知的基盤を理解するようになる。
- (2) 情報へのアクセス、プライバシー、検閲および知的自由に関わる問題点を明確に指摘できるようになる。
- (3) 社会における情報の流通を分析し、その流通における図書館や情報機関の役割を分析できるようになる。
- (4) 利用者と情報源の仲介者としての図書館員および情報スペシャリストの役割を分析できるようになる。

- (5) さまざまな利用者の情報要求を評価し、それに応えることができるようになる。
- (6) 情報資源の選択、収集、組織化、保存、検索および提供の理論を応用できるようになる。
- (7) 情報システムや情報サービスの計画、管理、評価ができるようになる。
- (8) 図書館や情報機関において経営理論や技術を応用できるようになる。
- (9) 研究調査の理論や技術を理解し応用できるようになる。
- (10) 専門職の倫理および専門職団体の役割を理解できるようになる。

2) 修士課程のカリキュラム

修士号を取得するためには、必須科目 8 単位を含めて 48 単位を履修する必要がある。その履修に要する期間は基本的に 2 年である。最初の学年は必須科目の 8 科目 (24 単位) を履修しなければならない。単位には加算されないが、新入学生は導入プログラム (Introductory Program) に参加する必要もある。そのプログラムは、新入学生を情報の世界へ案内し、図書館情報学分野の将来のリーダーシップについて紹介することを目的としている。プログラムは講義の開始される 1 週間前から始まり 1 年間つづく。そのプログラムでは、図書館情報職、情報技術、図書館情報学と関連する歴史的、社会的および文化的課題が紹介される。³¹⁾

修士課程用に関講されている科目群は以下の通りである。³²⁾

必須科目群 (すべて 3 単位)

「書誌コントロール」(Bibliographic Control)

「レファレンス資源とサービス」(Reference Sources and Services)

「情報の組織化」(Organization of Information)

「図書館情報サービス」(Library and Information Services)

「情報検索とデータベース開発」(Information Retrieval and Database Development)

「調査研究法」(Research Methods)

「情報機関の経営」(Information Agency Management)

「コレクション構築」(Collection Development)

選択科目群

「分類と目録」(Classification and Cataloguing)

「図書と印刷の歴史」(History of Books and Printing)

「公共図書館」(Public Libraries)

「図書館における人的資源」(Human Resources in Libraries)

「財政管理」(Financial Management)

「情報サービスのマーケティング」(Marketing Information Services)

「システム分析」(Systems Analysis)

「図書館の自動化とネットワーキング」(Library Automation and Networking)

「情報の蓄積と検索」(Information Storage and Retrieval)

「政府情報」(Government Information)

「科学・技術情報」(Scientific and Technical Information)

「ビジネス情報」(Business Information)

「専門図書館」(Special Libraries)

「大学図書館」(College and University Libraries)

「児童のための資料とサービス」(Materials and Services for children)

「青少年のための資料とサービス」(Materials and Services for Young Adults)

「記述書誌学」(Descriptive Bibliography)

- 「文書館学概論」(Introduction to Archival Science)
- 「計量的研究法と計量書誌学」(Quantitative Methods and Bibliometrics)
- 「人文学と社会科学の情報」(Humanities and Social Science Information)
- 「索引および抄録法」(Abstracting and Indexing)
- 「補修および保存」(Conservation and Preservation)
- 「情報の蓄積と検索システム」(Information Storage and Retrieval Systems)
- 「情報資源管理」(Information Resource Management)
- 「生医学情報」(Biomedical Information)
- 「法学情報」(Law Information)
- 「オンライン/CD-ROM データベース」(Online and CD-Rom Databases)
- 「情報処理における AI」(AI in Information Processing)
- 「2 言語環境における情報システム」(Information Systems in a Bilingual Environment)
- 「図書館情報学特講」(Special Topics in Library and Information Studies)
- 「情報問題」(Information Issues)
- 「研究プロジェクト」(Research Project)
- 「独立研究」(Independent Study)
- 「情報サービス実習」(Practicum in Information Services)

マギル大学には大学院図書館情報学修士課程 (Graduate Diploma in Library and Information Studies) コースもある。それは、現場で活躍している図書館専門員や情報スペシャリストに修士課程付きの継続教育の機会を与えるコースである。コースへの入学希望者は ALA によって認定された図書館情報学部から修士号を取得していなければならない。履修要件は 30 単位で、必須科目は「研究調査 1」(Research Paper 1: 6 単位) もしくは、「研究調査 2」(Research Paper 2: 12 単位) で、残りは修士課程用に開講され

ている科目を履修する。

8.3 ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館・文書館・情報学部における教育³³⁾

ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館・文書館・情報学部 (School of Library, Archival and Information Studies) を歴史的に概観すると、1961年に図書館学部 (School of Librarianship) の名称で創立され、1971年にはそれまでの1ヶ年学士課程を2ヶ年の修士課程に変更した。1981年に、文書館学修士課程 (Master of Archival Studies) を導入した。北米における最初の大学院課程の文書館学となった。そして、1984年に、現在の名称に変更している。

ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館・文書館・情報学部には、図書館情報学修士 (Master of Library and Information Studies)、文書館学修士 (Master of Archival Studies)、および上級研究修了証書 (Certificate of Advanced Study) の3つのプログラムがある。ここでは2つの修士課程を中心に考察する。

1) 修士課程の教育目標

ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館・文書館・情報学部の修士課程は、修了時の学生の能力という形式で、以下の9つを教育目的として挙げている。³⁴⁾

- (1) 記録情報の媒体の如何に拘わらず、記録情報を同定、探索、収集、記述、組織化、保管、保存およびアクセスを準備するために必要な基礎的な専門職技能を習得している。
- (2) 顕在的、潜在的利用者のニーズを認識でき、それらのニーズに応えるためのコレクションとサービスを構築できる能力をもっている。
- (3) ネットワークやコンソーシアムという形の機関もしくは機関間組織

の中で効果的な図書館および文書館サービスを計画・実施し、それら親機関に対して妥当性を証明できる能力をもっている。

- (4) 対費用効果およびニーズへの対応という側面からシステムやサービスを評価する能力をもっている。
- (5) 現在および将来開発されであろうコンピュータ・ベースの情報システムを計画、実施、評価でき、さらに他の人々がその情報システムを使用できるよう教えたり監督したりするのに必要な電子技術の原理を十分理解している。
- (6) 研究と学問のプロセスを理解し、研究の成果を評価し応用できる能力をもっている。
- (7) 研究に従事する資格を認められ、学会誌や専門職の出版物上で、または（専門職の会議も含め）学会で研究成果を伝達できる。
- (8) 個人のプライバシーやサービスの機密性の重要性を認識すると同時に、知的自由や情報への自由なアクセスの権利の重要性を理解している。
- (9) 図書館、文書館および情報機関における専門的サービスの質を高めるために、そして、社会におけるそれら専門職のステータスを高めるために努力している組織の活動に参加する。

2) 修士課程のカリキュラム

2-1) 図書館情報学修士課程のカリキュラム

図書館情報学の修士号を取得するためには、必須科目 21 単位を含めて 48 単位を履修する必要がある。その履修に要する期間は基本的に 2 ヶ年である。必須科目 21 単位の中には、3 単位の修了エッセー (graduating essay) が含まれる。修士論文を選択する場合、その修了エッセーを 12 単位の修士論文に換えることが可能である。また、必須科目 21 単位の中にはコア科目と称されるものが 4 科目 (12 単位) あり、それらは最初の学

期に履修する必要がある。なお、単位なしの実習も受けなければならない。その実習は指導教授との相談の上、3単位の「専門職経験」(Professional Experience) に切り替えることも可能である。その場合、実習より期間は長くプロジェクト中心になる。³⁵⁾

図書館情報学の修士課程用に開講されている科目群は以下の通りである。³⁶⁾

必須科目群の中のコア科目群 (すべて3単位)

「情報の基礎」(Foundations of Information)

「情報の書誌コントロール 1」(Bibliographic Control of Information I)

「レファレンスおよび情報サービス 1」(Reference and Information Services I)

「情報機関(組織)の機能とサービス」(Functions and Services of Information-Based Organizations)

その他の必須科目群

「図書館と文書館の管理」(Management of Libraries and Archives)

「図書館と文書館における調査研究法」(Research Methods in Libraries and Archives)

「実習」(Practicum)

「修了エッセー」(Graduating Essay) または「修士論文」(Thesis)

選択科目群 (サンプル)

「索引法」(Indexing)

「記録管理」(Records Management)

「歴史書誌学」(Historical Bibliography)

「文書館コンセプトの歴史」(History of Archival Concepts)

「コレクション管理」(Collection Management)

「児童のための文献・その他の資料」(Literature and other Materials for

- children)
- 「青少年のための文献・その他の資料 (Literature and other Materials for Young Adults)
- 「出版と図書販売」 (Publishing and the Book Trade)
- 「特殊文献」 (Specialized Literatures)
- 「特殊資料」 (Specialized Materials)
- 「青少年へのサービス」 (Services for Youth)
- 「成人へのサービス」 (Services for Adults)
- 「システム分析と情報システムの設計」 (Systems Analysis and Design of Information Systems)
- 「テキスト・データベースの設計と管理」 (Design and Management of Textual Databases)
- 「利用者中心の情報検索システムの設計」 (User-Oriented Design of Information Retrieval Systems)
- 「電子記録の管理」 (Management of Electronic Records)
- 「コンピュータ・ベースの情報システムの課題」 (Topics in Computer-Based Information Systems)
- 「図書館サービスと情報学における現代的課題と傾向」 (Current Topics and Trends in Library Services and Information Science)
- 「図書館建築の計画と設計」 (Planning and Design of Libraries)
- 「保存」 (Preservation)
- 「調査研究法特講」 (Topics in Research Methods)
- 「研究プロジェクト」 (Directed Research Project)
- 「セミナー：図書館サービスにおける特殊問題」 (Seminar: Special Problems in Library Service)

2-2) 文書館学修士課程のカリキュラム

文書館学修士を取得するためには、必須科目 27 単位を含めて 48 単位を履修する必要がある。その履修に要する期間は基本的に 2 ヶ年である。必須科目 27 単位の中には、3 単位の修了エッセー (Graduating Essay) が含まれる。修士論文を選択する場合、その修了エッセーを 12 単位の修士論文に換えることが可能である。³⁷⁾

文書館学の修士課程用に開講されている科目群は以下の通りである。³⁸⁾

必須科目群 (すべて 3 単位)

「文書館資料の性質」(The Nature of Archival Materials)

「事務システムにおける記録」(Records in Office Systems)

「カナダの文書館の法的性格」(The Judicial Context of Canadian Archives)

「文書館システムと専門職」(Archival Systems and the Profession)

「文書館資料の配列と記述」(Arrangement and Description of Archival Materials)

「文書館文書の選択と収集」(Selection and Acquisition of Archival Documents)

「アクセスと検索システム」(Access and Retrieval Systems)

「図書館と文書館における調査研究法」(Research Methods in Libraries and Archives)

選択科目群 (サンプル)

「索引法」(Indexing)

「記録管理」(Records Keeping)

「文書館コンセプトの歴史」(History of Archival Concepts)

「文書館の利用者サービス」(Archival Public Services)

「電子記録の管理」(Management of Electronic Records)

「図書館と文書館の管理」(Management of Libraries and Archives)

「保存」(Preservation)

「研究プロジェクト」(Directed Research Project)

「セミナー：文書館の経営管理もしくは利用における問題」(Seminar :
Topics in the Administration or Use of Archives)

「独立研究」(Directed Study)

「インターン」(Internship)

「専門職経験」(Professional Experience)

ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館・文書館・情報学部では、上記の図書館情報学修士と文書館学修士の課程において、先住民の文化の保存を考慮し、「最初の国民カリキュラム専攻」(First Nations Curriculum Concentration)を設置している。それらのカリキュラムは、上記のカリキュラムとはいくぶん相違し、必須科目群および選択科目群が細かく規定されている。そして、必須科目の中に「文化財の保護」(Care of Cultural Property)もしくは「博物館学」(Museum Methods)など、文化人類学分野の科目が入っている。³⁹⁾

8.4 ウェスタン・オンタリオ大学の大学院図書館情報学科における教育⁴⁰⁾

ウェスタン・オンタリオ大学の大学院図書館情報学科を歴史的に概観すると、好景気がつづき図書館専門職員が不足していた1967年に創設された。カナダの他大学の図書館学部とは異なり、当時発達しつつあった情報学を最初から導入し、学部の名称を「図書館情報学部」(School of Library and Information Science)とした。そして、アメリカ合衆国と同様、1年もしくは1年半の履修で修士号が取得できるようにした。その後、カリキュラムの刷新などを行い、常にカナダにおける図書館情報学教育のリーダー

格の一つであった。

しかし、カナダが1970年代後半から始まる経済的不況に見舞われると、長い間大学院研究科 (Faculty of Graduate Studies) の1ユニットとして守ってきた独立性を維持することができなくなった。上記のように、1996年、大学院ジャーナリズム学部 (Graduate School of Journalism)、継続教育学部 (Faculty of Part-time and Continuing Education) と合併させられた。そして、コミュニケーション／オープン学習学部 (Faculty of Communications and Open Learning) という新しい学部が創設され、その傘下に入ることになった。新学部はそれまでの3学部のカリキュラムを維持すると同時に、新学部の基盤強化を計るべく、学部学生用に「メディア・情報・技術文化」(Media, Information, and Technoculture) という新しい専攻を設置している。⁴¹⁾

「図書館情報学部」(School of Library and Information Science) は3~4年前に「大学院図書館情報学部」(Graduate School of Library and Information Science) に名称変更をし、1997年現在でもその名称を使っているが、上記のように1学科に降格している。

大学院図書館情報学科には、1997年現在、図書館情報学修士 (Master of Library and Information Science) と博士 (Doctor of Philosophy) の2つの課程がある。ここでは、修士課程の教育を中心に考察する。そして、学部課程の情報教育の一つのモデルになるだろうと予測される「メディア・情報・技術文化」専攻の教育についても考察する。

1) 修士課程の教育目標

ウェスタン・オンタリオ大学の大学院図書館情報学科の修士課程は、図書館情報学分野で理論と実践の両面で完全な知識をもつ専門職員を養成することを教育目的としており、修了生が以下の能力をもつことを期待している。⁴²⁾

- (1) 専門職の価値と標準について知っている。
- (2) 妥当で信頼性のあるデータの批判的分析に基づく健全な見識を形成しながら、知的探求心をもって変化に対応できる。
- (3) 記録媒体の如何に拘わらず、記録情報を同定、選択、収集、組織、記述およびアクセスを準備することができる。
- (4) 特定の利用者グループのニーズを同定でき、それらのニーズに応えるためのコレクションとサービスを構築できる。
- (5) 図書館情報学の応用分野で適切な技術を適応できる。
- (6) 利用者、仲間、雇用主および地域のメンバー間で、協力的かつ効果的にコミュニケーションをしながら就業できる。
- (7) 図書館情報学分野で起こる問題の解決に調査研究の基本原則と技術を応用できる。
- (8) 現代の経営原理を応用できる。

2) 修士課程のカリキュラム

修士号を取得するためには、必須科目5科目を含めて15科目を履修しなければならない。その履修に要する期間は通常1ヶ年(3学期)である。理論と実践の統合を重視しているので、必須科目のほとんどは授業に毎週実習(実験)が加わる。また、1997年度から修士号の取得要件として、「情報管理」や「人的資源の管理」などの経営管理関係の科目を少なくとも1科目履修することが義務づけられている。⁴³⁾

ウェスタン・オンタリオ大学の大学院図書館情報学科には「ワーク/学習プログラム」(Co-operative Supervised Work/Study Term)というのがあり、1学期を終えると1学期間図書館や情報センターなどの現場で働きながら学ぶ機会を学生に与えている。しかし、それは履修単位になるけれども、修士号取得に必要な15科目には加算されない。

図書館情報学の修士課程用に開講されている科目群は以下の通りであ

る。⁴⁴⁾

必須科目群

「図書館情報学概論」(Perspectives on Library and Information Science)

「情報の組織化」(Organization of Information)

「情報資源とサービス」(Information Resources and Services)

「調査研究法と統計学」(Research Methods and Statistics)

「情報システムと技術」(Information Systems and Technology)

選択科目群 (サンプル)

(情報の社会的文脈分野)

「図書館情報学の哲学」(Philosophy of Library and Information Science)

「図書館情報学におけるフェミニスト分析」(Feminist Analysis in Library and Information Science)

(資料分野)

「カナダ資料」(Canadiana)

「図書館と文書館における保護と保存の管理」(Conservation and Preservation Management in Libraries and Archives)

「児童と青少年のための文献」(Children's and Young Adult Literature)

「政府文書」(Government Documents)

「科学・工学における情報源とサービス」(Information Sources and Services in Science and Technology)

「法学情報資源とサービス」(Legal Information Sources and Services)

「コレクション構築」(Collection Development)

(資料の組織化分野)

「記述目録の理論と実際」(Descriptive Cataloguing Theory and Practice)

「分類と索引」(Classification and Indexing)

「文書館管理概論」(Introduction to Archival Administration)

「記録管理」(Records Management)

「主題分析とシソーラス構築」(Subject Analysis and Thesaurus Construction)

(利用者とサービス分野)

「上級情報サービス」(Advanced Information Services)

「情報専門職のための指導戦略」(Instructional Strategies for Information Professionals)

「児童と青少年のためのサービス」(Services for Children and Young Adults)

「ストーリーテリング」(Storytelling)

「ビジネスと産業分野の情報資源とサービス」(Information Sources and Services for Business and Industry)

(管理分野)

「情報管理」(Information Management)

「専門職のコミュニケーション」(Professional Communication)

「図書館計画」(Library Planning)

「情報専門職における法的問題」(Legal Issues for Information Professionals)

「人的資源の管理」(Human Resource Management)

「財政管理」(Financial Management)

「情報専門職の起業家精神」(Information Entrepreneurship)

(情報環境分野)

「コミュニティにおける公共図書館」(The Public Library in the Community)

「大学図書館」(Academic Libraries)

「専門図書館の管理運営と情報サービス」(Management of Special Librar-

ies and Information Services)

(情報システム技術分野)

「図書館情報サービスの自動化システム」(Automated Systems for Library and Information Services)

「データベース管理システムとプログラミング」(Database Management Systems and Programming)

「ソフトウェアの評価」(Software Evaluation)

「情報メディア」(Information Media)

(その他)

「ワーク／学習プログラム」(Co-operative Supervised Work/Study Term)

「独立研究」(Individual Study)

「指導研究」(Guided Research)

3) 学部課程「メディア・情報・技術文化」専攻の教育目標

ウェスタン・オンタリオ大学の学部課程「メディア・情報・技術文化」では、学生が理論的、歴史的文脈の中で情報／コミュニケーション技術を学習し、情報とメディアに関わる問題に対して批判的に対応できることを期待しており、その教育目的を以下のように卒業時の能力という形で表している。⁴⁵⁾

- (1) 特定の情報、コミュニケーションおよび学習技術を利用する能力
- (2) 収斂するコミュニケーション技術への歴史的、理論的な理解能力
- (3) 情報リテラシー（情報を機関的資源として理解し、関心のある領域で入手可能な情報資源の範囲を理解し、情報および情報資源を探索・入手し、批判的に評価できる能力）
- (4) メディア・リテラシー（伝達メディアの相違によって偏向の可能性があることを理解し、メディアのイメージとメッセージを批判的に読み、評価できる能力）

- (5) 社会における情報／コミュニケーション技術の役割および位置について批判的に分析できる能力
- (6) 内容が如何なる方法で種々の文化的形に入れられ、そして、フィルター化、編集、生産および提供されるかの理解能力
- (7) 自分達の学習プロセスを向上させるために、情報／コミュニケーション技術が如何に利用できるかの理解能力

4) 学部課程「メディア・情報・技術文化」専攻のカリキュラム

カナダの大学で BA (Bachelor of Arts) または BSc (Bachelor of Science) を取得するためには3ヶ年かかる。また、名誉学位 (honorary degree) があり、それは4ヶ年かかる。ウェスタン・オンタリオ大学の場合、BA または BSc を取得するためには15のフル科目を履修する必要がある。⁴⁶⁾ (フル科目は通年科目に相当し、以下にリストする科目は半期科目である。)

「メディア・情報・技術文化」専攻の専門科目群は以下の通りである。⁴⁷⁾

必須科目群

「カナダのニュース・メディア」(Canadian News Media)

「社会におけるマスメディア」(Mass Media in Society)

「報道の自由」(Freedom of the Press)

「放送ニュースの分析」(Analysing Broadcast News)

「情報爆発への批判的アプローチ」(Critical Approaches to the Information Explosion)

「サイバー・コミュニケーション」(Cyber-communication)

「調査研究法の設計および批判とデジタル時代」(Designing and Critiquing Research Methods and the Digital Age)

「情報の政治経済学」(The Political Economy of Information)

「メディアと情報の法的基盤」(Legal Foundations of Media and Informa-

tion)

「マルチメディアにおける法的, 倫理的問題」(Legal and Ethical Issues in Multimedia)

「サイバースペースにおける文化とコミュニティ」(Cultures and Communities in Cyberspace)

選択科目群 (サンプル)

「北米における技術と社会」(Technology and Society in North America)

「現代メディア概論」(Introduction to Contemporary Media)

「オンライン世界におけるフェミニスト問題」(Feminist Perspectives and Practices in the Online World)

「組織行動」(Organizational Behavior)

「映画の美学」(Film Aesthetics)

「電子環境における作文と読書」(Writing and Reading in an Electronic Environment)

「地理情報システム概論」(Introduction to Geographic Information Systems)

「上級コミュニケーション」(Advanced Communications)

「上級メディア芸術」(Advanced Media Art)

「メディア・情報・技術文化特講」(Special Topics in Media, Information and Technoculture)

「独立学習」(Independent Study)

8.5 コンコーディア大学における図書館情報学教育⁴⁸⁾

1974年, ロヨラ大学(Loyola College)とサー・ジョージ・ウィリアムズ大学(Sir George Williams University)の合併によりコンコーディア大学(Concordia University)が誕生した。コンコーディア大学における図書館

情報学教育を歴史的に概観すると、ロヨラ大学が1971年、図書館技能者養成のための教育を夜間部(Evening Division)で開始した。そして、その教育は合併してコンコーディア大学になった後もつづけられた。1976年に、夜間部から文理学部へ所属転換になった。しかし、現在でも職を持っている人達のことを考慮し、講義のほとんどを夜間に開講している。⁴⁹⁾

コンコーディア大学はケベック州に在りながら、ケベック州が作成した図書館技能者教育(厳密には、ドキュメンテーション技能者教育)のガイドラインではなく、CLAの作成した1982年ガイドラインに沿って養成を行っている。ケベック州のガイドラインが基本的に短期大学を対象にしたガイドラインであること、コンコーディア大学の教授がCLAの1982年ガイドラインの作成に加わったこと、などがCLAガイドライン採用の要因になっていると思われる。

コンコーディア大学は、1996年まで1) 図書館学証書(Certificate in Library Studies), 2) 図書館学専攻文学士(B. A. Major in Library Studies), 3) 図書館学修了証(Diploma in Library Studies), の3種のコースを開設している。⁵⁰⁾

1) 図書館学証書(Certificate in Library Studies) コース

図書館学証書コースは、学士号の取得は望まないが、図書館学の証書が欲しい学生のためのコースである。短期大学卒業を入学資格とし、図書館学領域で36単位、それ以外の科目24単位の合計60単位を履修すれば資格を取得することができる。図書館学領域は30単位までが必須科目になっている。⁵¹⁾

図書館学証書コースの専門科目群は以下の通りである。(科目はすべて3単位である。)⁵²⁾

必須科目群

「図書館サービス概論」(Introduction to Library Service)

「情報サービス」(Information Services)

「書誌検索」(Bibliographic Searching)

「目録法」(Cataloguing)

「主題アクセスと分類 I, II」(Subject Access and Classification I, II)

「図書館の自動化システム I, II」(Automated Library Systems I, II)

「オンライン情報検索」(Online Information Retrieval)

「実習および研究プロジェクト」(Field Work and Research Project)

選択科目群

「図書館の児童サービス」(Library Service and Work with Children)

「図書館の青少年サービス」(Library Service and Work with the Young Adult)

「公共図書館サービス」(Library Service and Work in the Public Library)

「学校図書館におけるサービス、蔵書およびプログラム」(School Library Services, Collections and Programmes)

「大学図書館サービス」(Library Service and Work in the College and University)

「マルチメディアの操作技術」(Technical Skills—Multi-Media Operations)

「視聴覚資料の組織化」(Organization of Audio-Visual Collections)

「ビジネス・産業分野における図書館サービス」(Library Service and Work in Business and Industry)

「科学・工学分野における図書館調査と図書館資源」(Library Research and Library Resources in Science and Technology)

「図書館学特講」(Advanced Topics in the Library Studies)

「調査研究法」(Research Methodology)

2) 図書館学専攻文学士 (B. A. Major in Library Studies) コース

図書館学専攻文学士コースはわが国の専攻に相当するもので、学位 (Bachelor of Arts) を取得するためには、図書館学領域で 36 単位、その他の科目 54 単位の合計 90 単位を履修する必要がある。図書館学領域は 30 単位までが必修科目になっている。必須科目群および選択科目群は、図書館学証書コースと同じである。⁵³⁾

3) 図書館学修了証 (Diploma in Library Studies) コース

図書館学修了証コースは、既に大学を卒業し、将来図書館技能者として職に就きたい人達を対象とするコースである。このコースに入学するためには、学生は学部で図書館学の教育を受けている必要はなく、むしろ全く受けていないことを想定している。修了証を取得するためには、必須科目 27 単位と選択科目 6 単位の合計 33 単位の図書館学を履修する必要がある。⁵⁴⁾

図書館学修了コースの科目群は以下の通りである。(科目はすべて 3 単位である。)⁵⁵⁾

必須科目群

「図書館サービスの理論と原理」(Theory and Principles of Library Service)

「レファレンス資料：情報」(Reference Materials：Information)

「レファレンス資料：書誌」(Reference Materials：Bibliography)

「書誌コントロール：記述目録とオンライン目録作業」(Bibliographic Control：Descriptive and Online Cataloguing)

「書誌コントロール I，II」(Bibliographic Control I，II)

「図書館自動化システム I，II」(Automated Library Systems I，II)

「インターンと総合試験」(Internship and Comprehensive Examination)

選択科目群

「図書館の児童サービス」(Library Service and Work with Children)

- 「図書館の青少年サービス」(Library Service and Work with the Young Adult)
- 「公共図書館サービス」(Library Service and Work in the Public Library)
- 「学校図書館サービス」(Library Service and Work in Schools)
- 「大学図書館サービス」(Library Service and Work in the College and University)
- 「図書館学のためのフランス語 I, II」(French for Library Studies I, II)
- 「マルチメディアの操作技術」(Technical Skills—Multi-Media Operations)
- 「視聴覚資料の組織化」(Organization of Audio-Visual Collections)
- 「ビジネス・産業分野における図書館サービス」(Library Service and Work in Business and Industry)
- 「科学・工学分野における図書館調査と図書館資源」(Library Research and Library Resources in Science and Technology)
- 「オンライン情報検索」(Online Information Retrieval)
- 「索引法」(Indexing)
- 「政府文書」(Government Documents)
- 「保存」(Preservation)
- 「文書館の経営管理」(Archives Management)
- 「カナダのレファレンス資料」(Canadian Reference Materials)
- 「記録管理」(Records Management)
- 「調査研究法」(Research Methodology)
- 「図書館学特講」(Selected Topics in the Library Studies)
- 「上級図書館学特講」(Advanced Topics in the Library Studies)

9. 結 び

以上、カナダにおける図書館情報学教育について歴史的に考察した。1) 1930年以前、2) 1930-1945年、3) 1946-1950年代、4) 1960年代、5) 1970年代、6) 1980年以降というふう到大卒の時代区分をし、さらに、専門職教育と技能者教育に分け、それぞれの時代の変化に応じた特徴を分析することを試みた。全体的に見た場合、カナダにおける図書館情報学教育は専門職教育として着実に進展していったといえることができる。そして、その背景には、時代の要請もあったけれども、図書館情報学教育に携わる教員、特にリーダーシップを発揮した主任や学部長の絶えまない努力と先見の目があったといえることができる。

カナダにおける図書館情報学教育はアメリカ合衆国の分派として理解される傾向にあるが、専門職教育に関しては、1970年代に2ヶ年の大学院教育という独自の道を歩んでいくことを見てきた。1970年代以降アメリカ合衆国の図書館情報学部が数多く閉鎖に追い込まれるのに対し、カナダではオタワ大学以外は閉鎖されることはなかった。その要因の一つは、2ヶ年という相対的に長期の教育期間（基盤の堅実化につながる）と安定した供給量にあった。しかし、1990年代に入り、カナダの図書館情報学教育にも大きな振動が起こっている。カナダの長期にわたる経済的不況は、図書館情報学教育のような比較的規模の小さい専門職教育を大きく揺るがしている。そのような状況の中で、カナダの図書館情報学部は情報学や文書館学など類縁領域を含めることによって延命を図っている。

注

- 1) マギル大学の P. F. McNally 教授からの 1997年2月12日付、トロント大学

の Lynne C. Howarth 学部長および Karen Melville からの 1996 年 11 月 27 日付 e-mail。

- 2) Ibid.
- 3) Ibid.
- 4) McNally, P. F. "Fanfares and Celebrations : Anniversaries in Canadian Graduate Education for Library and Information Studies," op. cit.
- 5) アルバータ大学図書館情報学部(科)長 Alvin M. Schrader 教授からの 1996 年 12 月 14 日付 e-mail。
- 6) マギル大学の P. F. McNally からの 1997 年 2 月 12 日付 e-mail。
- 7) Ibid.
- 8) Canada. Ministry of Industry. Information Highway Advisory Council. Final Report. 1996.
- 9) Montgomery, M. "New Guidelines Developed for Library Technician Programs," *Canadian Library Journal*. 39 (3) : June. 1982, p. 159-162.
- 10) Canadian Library Association. Committee on Library Technicians (Role & Education). *Guidelines for the Education of Library Technicians*. Ottawa, CLA, 1982, p. 3-4.
- 11) Montgomery, M. op. cit.
- 12) Canadian Library Association. Committee on Library Technicians (Role & Education). op. cit., p. 4.
- 13) Horrocks, N. "North American Trends in Library and Information Science," *Canadian Library Journal*. 43 (5) : Oct. 1986, p. 293-296.
- 14) *Library Studies Program Course Guide*, 1995-96. Montreal, Concordia University, 1995.
- 15) 主に次の文献に基づいている。
Faculty of Information Studies, 1995-96 Calendar. Toronto, University of Toronto, 1995.
Faculty of Information Studies Continuing Education Program, 1996-97. Toronto, University of Toronto, 1996.
University of Toronto Faculty of Information Studies Program Presentation, Submitted to Office for Accreditation, American Library Association, 12 February 1996. Toronto, University of Toronto. 1996.
1996 年 9 月, トロント大学情報学部の Lynne C. Howarth 部長とのインタビュー。
トロント大学情報学部の Web サイト (<http://www.fis.utoronto.ca>)。
- 16) 1996 年 9 月, トロント大学情報学部の Lynne C. Howarth 部長とのインタビュー。

ユー。

- 17) *University of Toronto Faculty of Information Studies Program Presentation, Submitted to Office for Accreditation, American Library Association, 12 February 1996.*, op. cit., section 1, p. 2-3.
- 18) *Faculty of Information Studies, 1995-96 Calendar.* op. cit., p. 7-8.
- 19) *Ibid.*, p. 20-29.
- 20) 1996年9月, トロント大学情報学部の Lynne C. Howarth 部長とのインタビュー。
- 21) *University of Toronto Faculty of Information Studies Program Presentation, Submitted to Office for Accreditation, American Library Association, 12 February 1996.*, op. cit., section 1, p. 6.
- 22) *Faculty of Information Studies, 1995-96 Calendar.* op. cit., p. 30.
- 23) *Ibid.*, p. 32-34.
- 24) *Ibid.*, p. 35-36.
- 25) *Faculty of Information Studies Continuing Education Program, 1996-97.* op. cit.
- 26) 主に次の文献に基づいている。
Graduate School of Library and Information Studies, 1996-97. Montreal, McGill University, 1966.
 1996年9月にマギル大学大学院図書館情報学部を訪問した際の Diane Mittermeyer 学部長代理 および Jamshid Beheshti 準教授とのインタビュー。
 マギル大学大学院図書館情報学部の Web サイト (<http://www.gslis.mcgill.ca>)。
- 27) *Graduate School of Library and Information Studies, 1996-97.* op. cit., p. G 3-G 4.
- 28) *Ibid.*, p. G 4.
- 29) *Ibid.*, p. G 10.
- 30) *Ibid.*
- 31) *Ibid.*, p. G 10-G 11.
- 32) *Ibid.*, p. G 12-G 15.
- 33) 主に次の文献に基づいている。
 白井澄子「カナダの図書館員教育」『情報の科学と技術』40 (5) : May 1990, p. 343-450.
 プリティッシュ・コロンビア大学図書館・文書館・情報学部の Web サイト (<http://www.slais.ubc.ca/slais>)。
- 34) SLAIS Mission, Goals and Objectives. (<http://www.slais.ubc.ca/slais/mission.htm>) (1997年11月18日アクセス)

- 35) Master of Library and Information Studies. (<http://www.slais.ubc.ca/slais/programs/mlis.htm>) (1997年11月18日アクセス)
- 36) Ibid.
- 37) Master of Archival Studies. (<http://www.slais.ubc.ca/slais/programs/mas.htm>) (1997年11月18日アクセス)
- 38) Ibid.
- 39) First Nations Curriculum Concentration. (<http://www.slais.ubc.ca/slais/programs/fn.htm>) (1997年11月18日アクセス)
- 40) 主に次の文献に基づいている。

The University of Western Ontario Graduate School of Library and Information Science, 1994-1996. London, Univ. of Western Ontario, 1994?
ウェスタン・オンタリオ大学のコミュニケーション／オープン学習学部のホームページ (<http://www.fcol.uwo.ca>)
ウェスタン・オンタリオ大学の大学院図書館情報学科の Web サイト (<http://www.uwo.ca/gslis>)
- 41) GSLIS Calendar, 1996-1998. (<http://www.uwo.ca/gslis/calendar/calenda4.htm#E15E4>) (1997年11月25日アクセス)
Faculty of Communications and Open Learning. (<http://www.uwo.ca/gslis/calendar/calenda5.htm#E15E4>) (1997年11月25日アクセス)
- 42) The MLIS Program. (<http://www.uwo.ca/gslis/calendar/calend10.htm#E15E10>) (1997年11月25日アクセス)
- 43) Structure of the MLIS Program. (<http://www.uwo.ca/gslis/calendar/calend19.htm#E34E8>) (1997年11月25日アクセス)
- 44) Ibid.
MLIS Course Offerings, 1996-98. (<http://www.uwo.ca/gslis/calendar/mliscour.html>) (1997年11月25日アクセス)
- 45) Faculty of Communications and Open Learning. Media, Information & Technoculture. (<http://www.fcol.uwo.ca/mit/mit.htm>) (1997年11月25日アクセス)
- 46) Program Planning. (<http://www.ptce.uwo.ca/pts/program.htm>) (1997年11月25日アクセス)
Faculty of Communications and Open Learning. Area of Concentration. (<http://www.registrar.uwo.ca/accals/current/sec612.htm>) (1997年11月25日アクセス)
- 47) MIT Courses. (<http://www.fcol.uwo.ca/mit/mitcours.htm>) (1997年11月25日アクセス)
- 48) 主に次の文献に基づいている。

Library Studies Program Course Guide, 1995-96. op. cit.

1996年9月にコンコーディア大学を訪問した際の Ann M. Galler 準教授とのインタビュー。

コンコーディア大学の Web サイト (<http://www.concordia.ca>)。

- 49) *Library Studies Program Course Guide, 1995-96.* op. cit.

1996年9月にコンコーディア大学を訪問した際の Ann M. Galler 準教授とのインタビュー。

- 50) *Library Studies Program Course Guide, 1995-96.*, op. cit.

1996年9月にコンコーディア大学を訪問した際の Ann M. Galler 準教授とのインタビュー。なお、1997年度から図書館学コースが教育学科に所属するようになって、図書館学専攻学士 (B. A. Major in Library Studies) の名称を情報学専攻学士 (B. A. Major in Information Studies) への変更を試みており (1997年12月5日付けの Ann M. Galler 準教授からの e-mail)、図書館学プログラムに関しては、1996年時点のものである。

- 51) *Library Studies Program Course Guide, 1995-96.*, op. cit.

52) Ibid.

53) Ibid.

54) Ibid.

55) Ibid.

(この小論は、部分的に平成8-9年度科学研究費補助金(国際学術研究)「海外における情報技術を導入した図書館情報学教育の展開状況についての調査研究」(合同研究)に基づいている。)